

「笑顔あふれる一年に」



木古内町長

鈴木 慎也

令和5年の新春を謹んでお慶び申し上げます。

皆さまにおかれましては、穏やかな新春をお迎えのことと存じます。

昨年を振り返りますと、きこない認定こども園の開園や函館江差自動車道木古内ICの開通に加え、町制施行80周年という大きな節目の年でありました。コロナ禍で記念式典の開催が危ぶまれましたが、町民のみなさまの多大なご協力のもと無事開催することができました。式典のなかでは、地方自治や様々な分野で町の振興発展に寄与された17の個人や団体に自治功労と感謝状を授与したほか、先人たちのこれまでの功績や努力に深く敬意を表し、あらためて感謝の念を抱いたところです。

近年、国内外で異常気象が多く見られるようになり、当町でも昨年8月の集中豪雨では道路や水路などに被害が

あり、町民のみなさまにおかれましては大変不安に過ごされたことと存じます。幸い、人的被害はありませんでしたが、今後も防災対策や防災意識の向上に努めてまいります。

また、原油価格高騰による光熱費や物価の上昇など、町民生活への影響はあらゆるところに及んでいます。町として生活を守るために全世帯を対象としたエール支援金給付事業を行います。

このほか、町を元気にする取組みとして昨年、みらいある条例（木古内町移住定住新生活しあわせサポート条例）を施行し、多くの移住者や、定住者へ支援を行い、初年度から十分な効果を発揮することができたと感じているところです。

一次産業では、昨年からサーモン種の養殖関連事業が始まり、観光に関してはコロナ禍でありながら、道の駅満

足度ランキングで1位に返り咲くなど明るい兆しが見えてきました。引き続き、新たな観光資源の開発と町内周遊や広域観光を促進する取組みを行ってまいります。

福祉では高齢者の安心・安全な生活を守るため、高齢者福祉サービス利用券の継続、センサー付き見守り機器による孤独死等の予防や、特殊詐欺防止のための電話機購入支援などを積極的に行います。

教育では、昨年10月に藤澤新教育長を迎え、未来を担う子どもたちには、新しい時代に適した学習指導要領に基づき、小中学生のタブレット活用を推進し、必修化された英語学習やプログラミング学習にもしっかり取り組んでまいります。

また、木古内町ならではの豊かな自然を生かした体験活動や、社会の変化を柔軟に受け入れることができる学習環境を充実させ、年齢に関係なく町民一人ひとりが生涯にわたりいきいきと活躍する学びの場を作りあげるため

力してまいります。

私が町長に就任してから2年9ヶ月が経過し、この間、未来を創る様々な新しい事業に全力で取り組んでまいりましたが、施策の推進には、私自身の政治理念はもとより、町民のみなさまからの意見や考えを聴くことが肝要であると考えております。今後も「お出かけ町長室」や「GOTO町長室」の取組みを続け、うさぎのように耳を大きくして、みなさまの声を聴ききかたチにしていきたいと思います。

結びに、これからも町民みなさまのお力添えをいただき「今と未来の為に持続可能なまちづくり」の実現に向け、全力で挑戦し続けることをお約束すると共に、町民みなさまのご健勝ご多幸を祈念して年頭のご挨拶と致します。

